

公益財団法人大倉精神文化研究所・岡倉天心市民研究会 共催

12月1日 公開講演会

哲学と茶による東西融合 —岡倉天心の『茶の本』をよむ—

おかくらてんしん

岡倉天心の『茶の本』での茶道の定義は、二つの点で特異です。第一は、茶道を“Teaism”という言葉で定義している点。第二には、茶道を「審美主義の宗教」と、宗教の範疇で定義しようとしている点。第一の点は、“Taoism（道家思想）”“Zennism（禅道）”と三者を並べて用いていることと関係ありそうです。第二の点に関連しては、『東洋の理想』で、日本の美術の流れを仏教や儒教の流れとあわせて論じ、キリスト教文化圏たる「西洋」に対する仏教文化圏としての「東洋」という意味づけを、“East”に与えた点が思い起こされます。

天心が、「東洋哲学」の存在をアピールした背景には、東西の融合という目的があり、第一章を“The cup of humanity（人間性を盛る一椀）”と名付けたことにもつながる点を、『茶の本』執筆当時のボストンの状況を背景に考えてみたいと思います。

◇日時：平成30年12月1日(土) 午後2時～3時30分（開場は午後1時40分）

◇会場：横浜市大倉山記念館 ホール

横浜市港北区大倉山二丁目10-1 大倉山公園内（東急東横線大倉山駅下車徒歩7分）

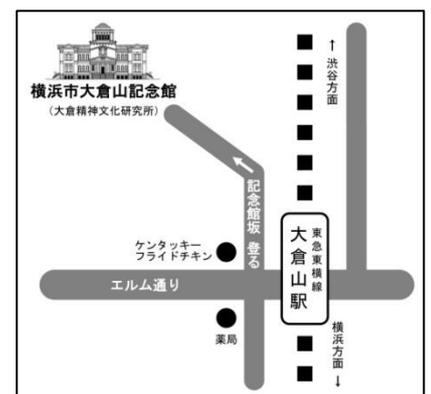
◇講師：田中 仙堂（大日本茶道学会会長）
たなか せんどう

◇定員：40名（入場無料、予約なし当日先着順）

◇問合せ：公益財団法人大倉精神文化研究所 電話 045-834-6637

Eメール okuraseishinbunka@js6.so-net.ne.jp

ホームページ <http://www.okuraken.or.jp/>



大倉山駅からのアクセス

展示会のお知らせ

11月1日(水)から第38回研究所資料展「世の為に田を耕す～大倉家

三代の生き方～」開催中(2/28まで) / 会場：大倉精神文化研究所附属図書館（大倉山記念館内）